

The 13th IAGG Master Class on Ageing in Asia 体験記

大河原桃子

(日老医誌 2025 ; 62 : 333)

2025年5月23日～25日にマレーシアの首都であるクアラルンプールに位置するマラヤ大学で開催されました。IAGG(The International Association of Gerontology and Geriatrics)主催のThe 13th Master Class on Ageing in Asia(MCA)に参加させていただきました。私は現在卒業後8年目で、大阪大学大学院医学研究科老年・総合内科学に所属し認知症診療を含めた高齢者医療に従事しております。以前よりMCAに参加された科内の先輩方からいろいろと伺い、興味を持っていたところ今回機会をいただき応募・参加させていただくこととなりました。

約7時間の夜間フライトを経てクアラルンプールに到着し、1日目はマレーシア料理を食べながらのランチシンポジウムでスタートしました。今回のMCAでは著名な先生方による7つの講義と10人程度のグループに分かれてのケースディスカッションおよびポスターセッションが行われました。また、すべての食事は講義を行った広間で提供され、朝食・昼食をとりながら行われたシンポジウムも計3回開催されました(今回のMCAで一生分のマレーシア料理を食べたと思います)。講義では転倒・サルコペニア、認知症・うつ・せん妄、栄養学、ワクチン、Integrated Careなど多岐にわたり、大変勉強になりました。また、一部の講義時間では主会場とは別の会場でgerontology trackが開催され、老年学の統計についても学ぶことができました。ケースディスカッションではデング熱に罹患・入院後に肺炎を発症した高齢女性の症例について検討しました。今回のMCAでは概ね職種ごとにグループ分けがされており、グループメンバーは全員医師(医学部生)でした。ディスカッションの速さに面喰い、議論の中心に入るのは難しかったのですが、廃用が進んだ症例での急性期が過ぎた後の行先について、各国の状況を知ることができました。デング



熱を実際には診察したことがなかったのですが、マレーシア、シンガポール、香港、インドネシアなどからの参加者は皆経験があると言っており、地域による疾患の違いも感じることができました。

講義後には同じグループの参加者の先生方と仲良くなり、ツインタワーを見に出かけたり、近くのコンビニで会ったメンバーとそのままカフェでおしゃべりをしたりなど、拙い英語ながらも、とても楽しい時間を過ごしました。

最終日に各チームから選ばれた代表者のポスタープレゼンテーションがあり、その一人に当科から共に参加した小原先生が選ばれました。すべてのプレゼンテーションで大きな歓声・拍手があがり、和気藹々とした雰囲気それぞれの代表者の素晴らしい発表を聞き、大変刺激になりました。

この度は各国の先生方と交流する貴重な機会を与您いただき本当に有難うございました。今後も老年医学の発展にむけて微力ながら精進いたします。この場を借りて深く感謝申し上げます。